



日程：2012年1月21日

山域：上越 荒沢山～足拍子

参加：国府谷、中村、土井

土樽駅 06:25 カドナミ尾根の取付 荒沢山 10:18 ホソドのコル 11:14 コソドのコル
13:15 足拍子山 1419 南カドナミ尾根経由で下山 18:00※



夜が明けたばかりのカドナミ尾根を荒沢山へとラッセルする。トレースはない。雪が柔らかく、2人目でも沈んでしまうワカンに閉口した。背後を振り向くと、煌々と明かりをつけた水上行きの列車が土樽駅に滑り込んでいくところだった。「お、いい雰囲気だぞ」。でも、そんな感慨に浸っている余裕はない。

年末年始にたっぷり皮下脂肪をつけてしまったので、プヨンプヨン。国府谷さんについていくのが精一杯なのに、すぐ後ろからは元気な中村さんが迫ってくる。「デブ、頑張れ」と自らを叱咤する。

4時間で、荒沢山頂上。西に目を向けると、足拍子までの稜線が複雑な容姿を見せている。カドナミ尾根から見上げたときは「ちょろいかも」と期待したのだが、上越のバリエーションは甘くなかった。のっけから雪庇のお出まし。しかも、いっばしに亀裂が走っている。おそろおそろ超えていくが、デブ化しているため、最初に「ズブ」と沈むと、その後はズブ、ズブ、ズブズブ…。「ああ、雪庇の上にいるのだから堪忍して」とお願いしても、と沈んでいく自分の体重が恨めしい。



さて、核心といわれるホソドのコル。まだ雪のつき方が中途半端で、支点となる灌木までが怖い。という訳で、ホソドの岩峰を巻くように、急斜面をトラバースしてコルを目指すことに。「前門の狼、後門の虎」とは、こんなことを言うんだろうなあ。でも、果敢にトップで攻める国府谷さんが心強い。「鬼に金棒、我らに国府谷」という意味不明な強気で、よーし、狼でも虎でも何でも来い！



トラバースした先、コルまで最後の4メートルは懸垂下降。そして本日のメインイベント、コルからの登り返し。トップの国府谷さんが雪壁にとりついたが、ロープを20メートル出したところ



で、イレブンのクライマーが難儀している。雪の付き方が悪く、3メートルほど垂壁になっているらしい。2番手の中村さんはプルージック登攀で、大奮闘して突破。さて、私の出番だが、「2人で雪を削りとってしまったじゃん…どうするんだよ」と、泣きたい気分。案の定、ホールドもスタンスも、きれいに消失していて、「はて、いったい、どう登るの？」と途方に暮れた次第。

この後も雪壁登りあり、木登りありと、一時として飽きさせてくれないのが、この稜線。コソドのコルの手前で雪稜が抜けて胸までストンと落ちたが、左足は着地も決まり「10点満点」。でも、もう片一方の足はの下には何もないような感触で、右足がブランブランしている。「おい、おい、やばいぞ」。必死にはい出て、穴を覗き込んだところ、でっかい空洞が口を空けていた。



コソドから、尾根は鋭角に曲がり、足拍子岳まで150メートルぐらいの登り。ここも、我々がリーダーの独壇場。ノンストップでラッセルし、4時間かけて足拍子岳に無事、到着。小雪が舞うなか3人で握手した。頂上から見下ろした稜線は、何の変哲もないルートだが、いやいや、素晴らしいバリエーションルートが秘められている。



下山は、時間との競争。眼下に土樽駅が見えるため、気分は既に温泉&トンカツ大盛りだが、そうは問屋がおろさない。足拍子南峰への登り返しは腹までのラッセルで、下りでロープを2回も出したため、どんどん暗くなっていく。

谷川にかかっていた分厚い雪雲が近づき、雪も降り出した。アイゼンからワカンにはきかえて、林に突入したのはいいが、これが苦行の連続。木のウロにはまるわ、軟雪に足をとられるわ、もう散々。せめての救いは、関越自動車の明かりが見

えることで、最後は「まあ、あそこを目指せば、いいだろう」というやけくそ気味な下山
となってしまった。それでも、下山後の充実感はバツグン。日帰りで、これほどスリリン
グな雪稜を楽しむのだから、今度はダイエットしてから快晴の日にチャレンジしたい。